

第2章 食に関する現状と課題

1 アンケート調査の概要

(1) 調査の目的

小牧市食生活等に関するアンケート調査は、小牧市民の食生活等に関する現状や考えを把握し、「第3次小牧市食育推進計画」策定の基礎資料を得る目的で実施しました。

(2) 調査の設計

名称	一般市民調査	小中高校生調査	保育園・幼稚園調査
(1) 調査地域	小牧市全域	小牧市内の小・中学校・高等学校	小牧市内の保育園・幼稚園
(2) 調査対象	小牧市に在住する 20歳以上の男女	小学5年生(4校/16校中) 中学2年生(2校/9校中) 高校1年生(1校/4校中)	園児 ^{※1} 及び保護者 保育園(2園/20園中) 幼稚園(2園/11園中)
(3) 標本数	1,500サンプル	973サンプル	594サンプル
(4) 抽出方法	無作為抽出	—	—
(5) 調査方法	郵送法	学校にて配布、回収	保育園・幼稚園にて配布、回収
(6) 調査時期	平成28年10月		

※1 保育園・幼稚園保護者に園児及び保護者自身の食生活等の状況について調査を行いました。

(3) 回収結果

調査対象	配布数	回収数	回収率
一般市民調査	1,500サンプル	588サンプル	39.2%
小中高校生調査	973サンプル	930サンプル	95.6%
：小学5年生	274サンプル	263サンプル	96.0%
：中学2年生	379サンプル	340サンプル	89.7%
：高校1年生	320サンプル	314サンプル	98.1%
：無回答	—	13サンプル	—
保育園・幼稚園調査	594サンプル	381サンプル	64.1%
合計	3,067サンプル	1,899サンプル	61.9%

(4) グラフの見方

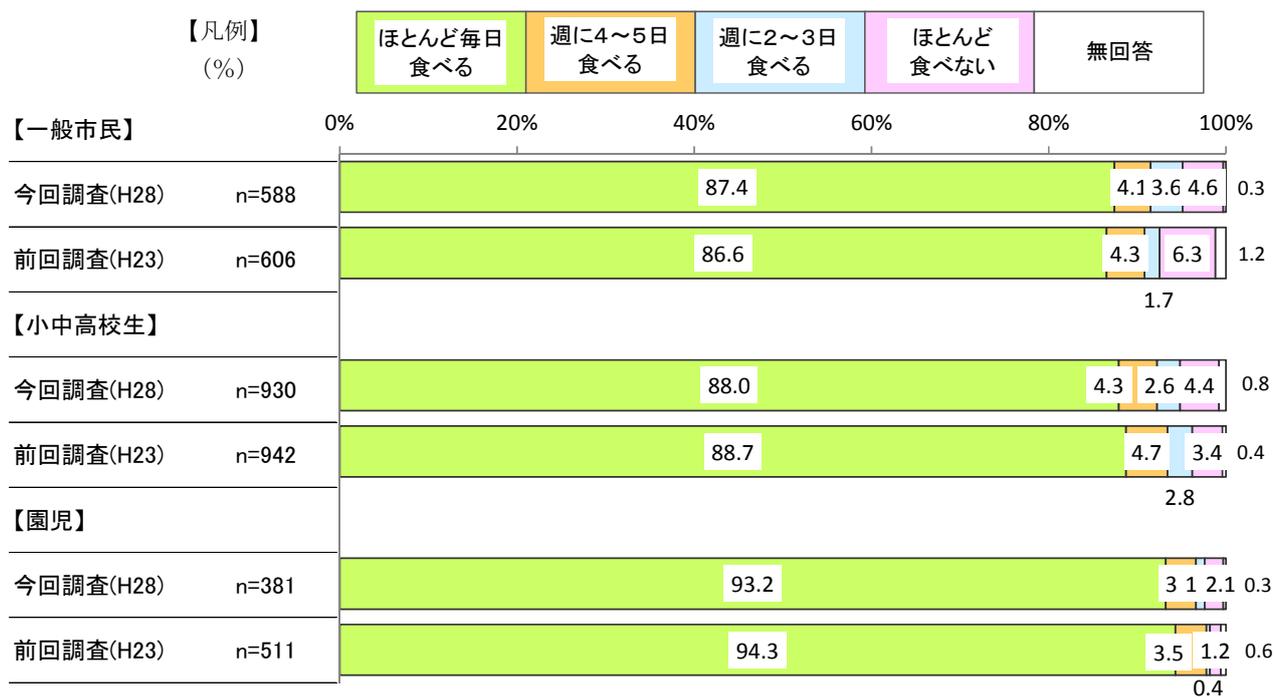
- ①比率はすべてパーセント(%)で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しました。そのためパーセント(%)の合計が100にならないことがあります。
- ②基数となるべき実数は「件数」として掲載しました。したがって、比率は件数を100%として算出しています。
- ③クロス集計を行っている場合、分析軸に使用した設問に無回答がある場合、全体の基数と分析軸の基数との合計が合わない場合があります。
- ④複数回答が可能な質問の場合は、その項目を選んだ人が回答者全体のうち何%なのか、という見方をします。そのため、各項目の比率の合計は通常100%を超えます。
- ⑤表・グラフ等の見出し及び文章中での回答選択肢は、本来の意味を損なわない程度に省略して掲載している場合があります。
- ⑥保育園・幼稚園調査結果については回答対象が園児の場合「園児」とし、保護者対象の場合は「園児保護者」とします。

2 アンケート調査結果

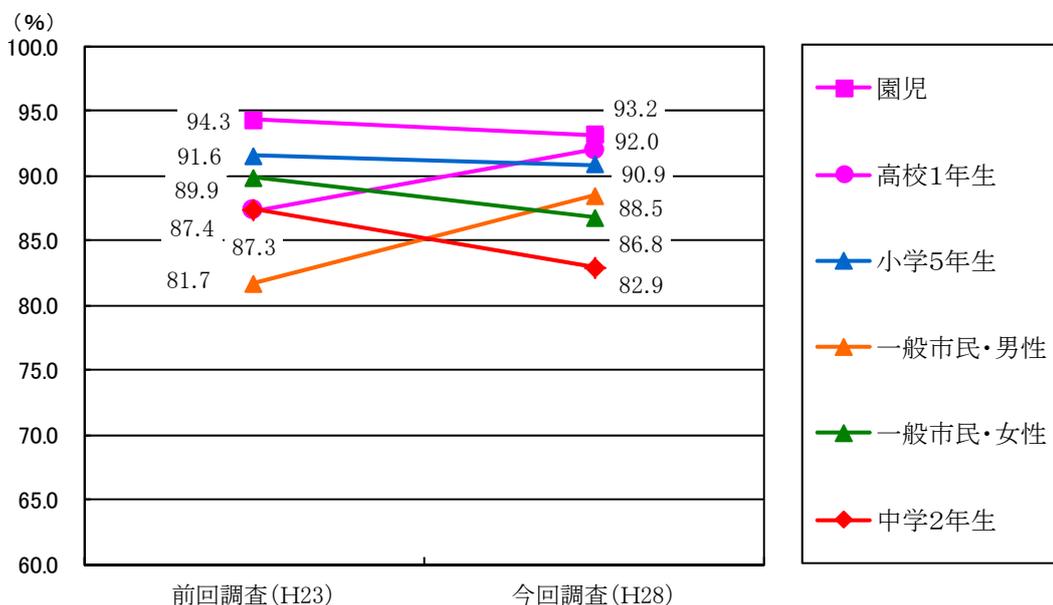
基本目標1 食を通じて健やかな身体をつくろう の現状

① 朝食の欠食状況

毎日朝食を食べる人は、一般市民、小中高校生、園児についてはともに現状維持。
 前回調査と比較すると、ほとんど毎日食べる割合は、一般成人男性、高校生で増加。中学生では減少。

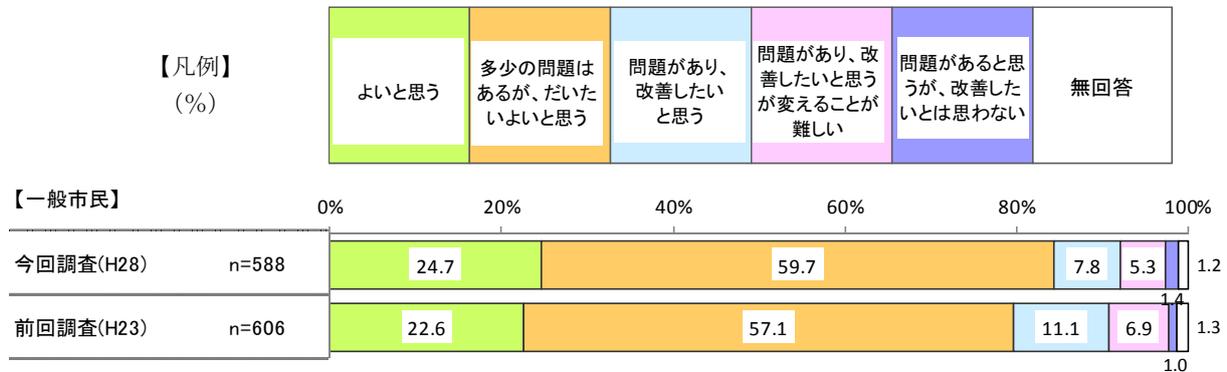


朝食を「ほとんど毎日食べる」の割合の推移



②自身の食生活の評価

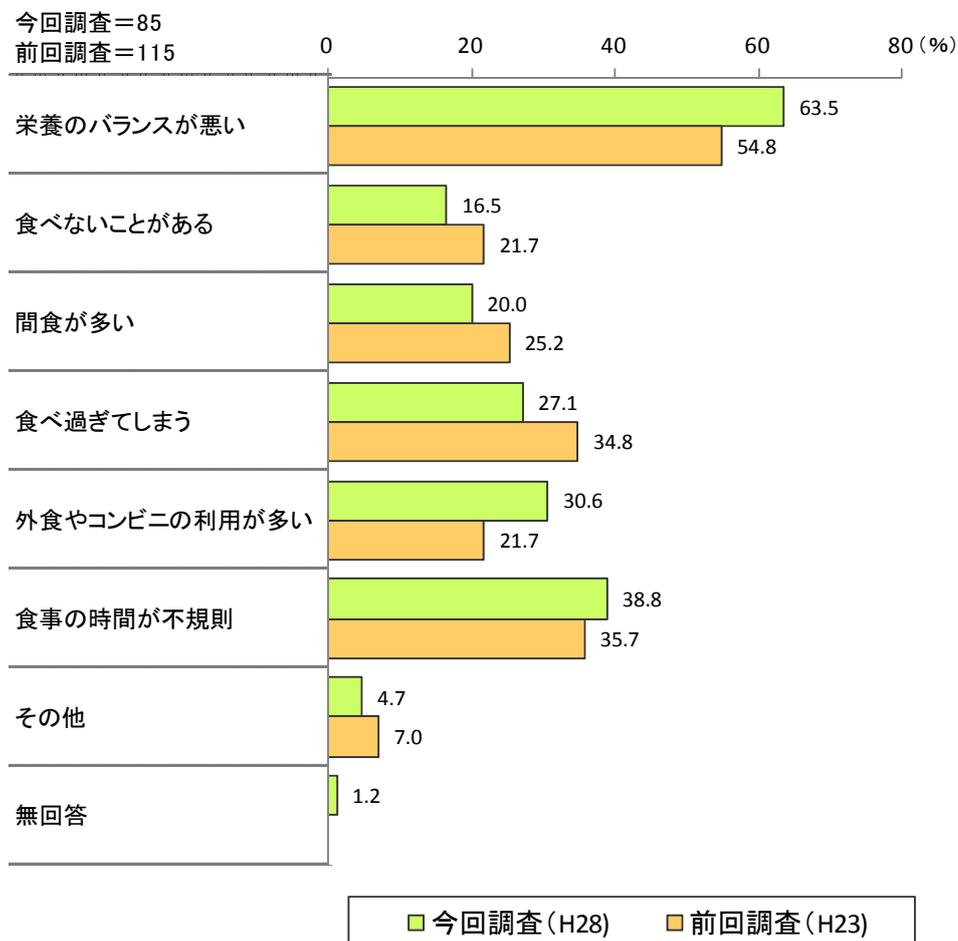
自身の食生活を『よいと思う※1』人は、84.4%。前回調査と比較すると、『よいと思う』は4.7ポイント増加し、『問題があると思う※2』も4.5ポイント減少。



※1 「よいと思う」「多少の問題はあるが、だいたいよいと思う」の計

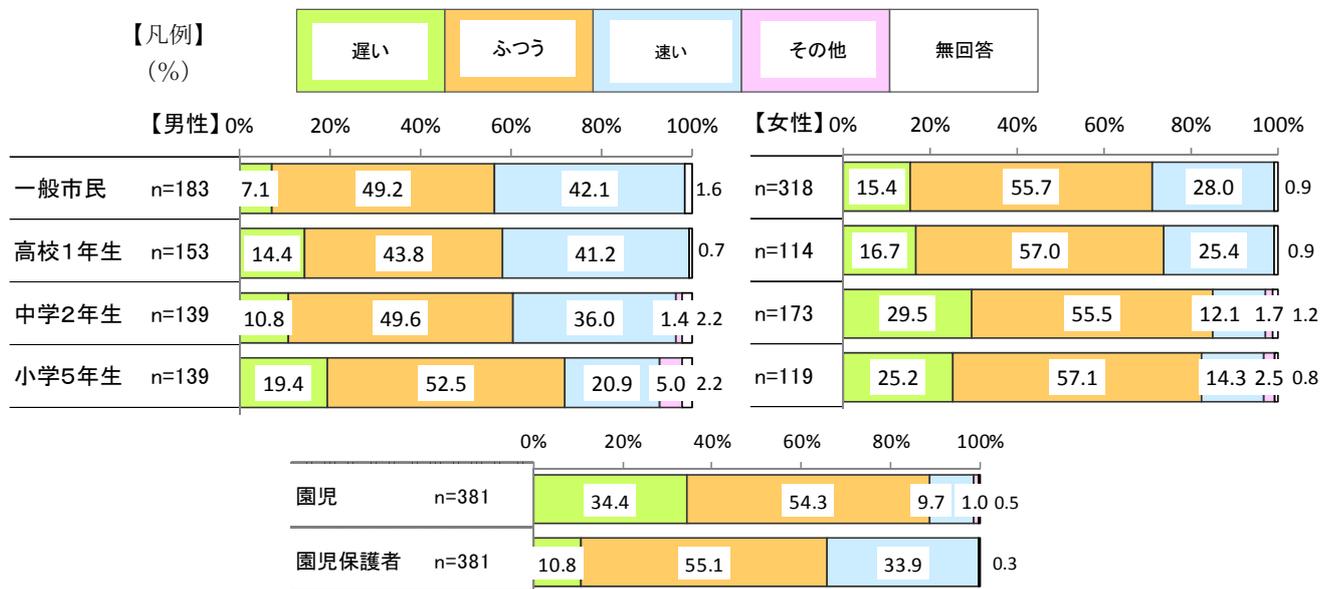
※2 「問題があり改善したいと思う」「問題があり改善したいと思うが変えることが難しい」「問題があると思うが改善したいとは思わない」の計

問題があると回答した人の具体的な内容は、「栄養のバランスが悪い」が63.5%と最も多く、前回調査と比較して8.7ポイント増加。



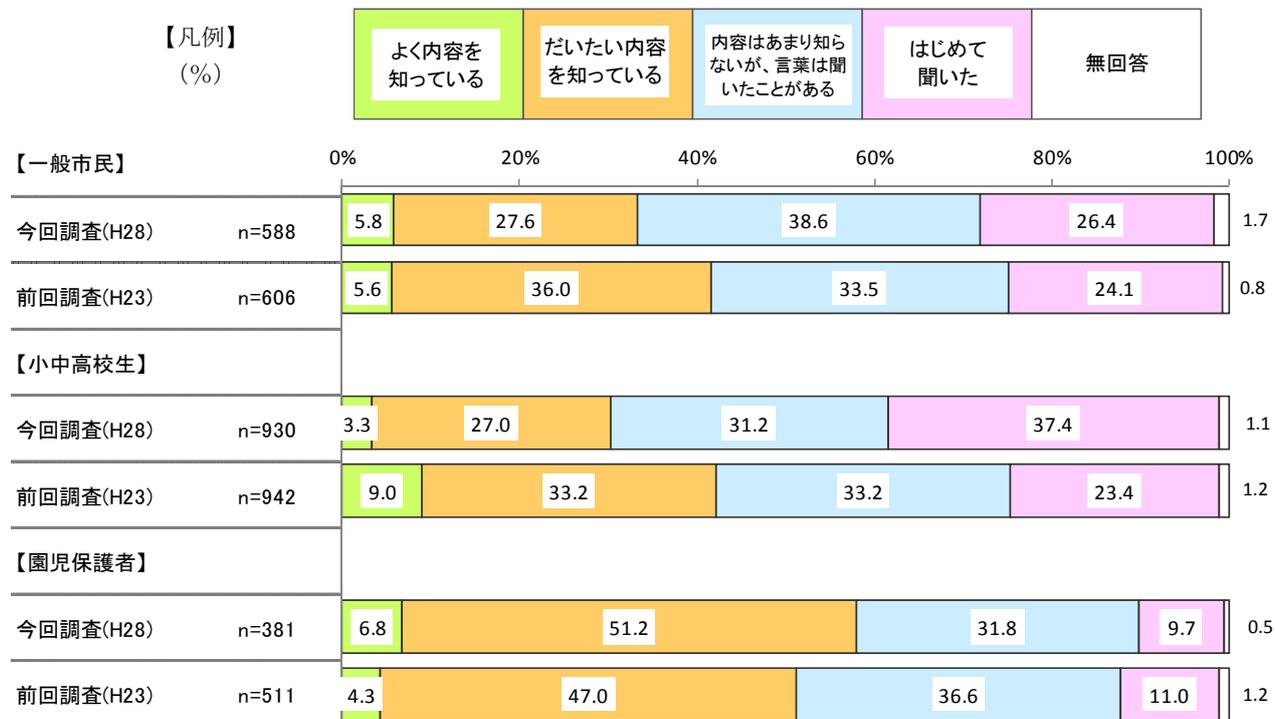
② 食べる速度について

食べる速度が「速い」の割合は年齢が上がるにしたがって高くなり、性別では女性に比べ男性が「速い」人が多い。



③ 食事バランスガイドの認知

「食事バランスガイド」について、内容の認知度※1 は一般市民において33.4%、小中高校生で30.3%、園児の保護者で58.0%となっており、前回調査と比較すると、園児の保護者では増加。言葉の認知度※2 はいずれも6割で特に園児の保護者で高い。前回調査と比較すると園児保護者では増加。

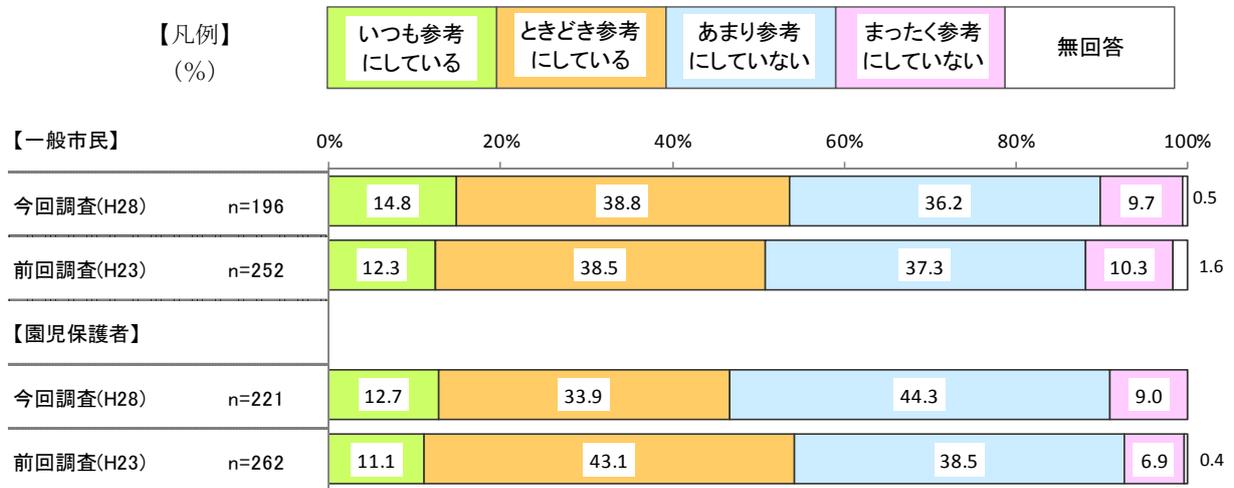


※1 「よく内容を知っている」「だいたい内容を知っている」の計

※2 「よく内容を知っている」「だいたい内容を知っている」「内容はあまり知らないが言葉は聞いたことがある」の計

④ 食事バランスガイドの活用

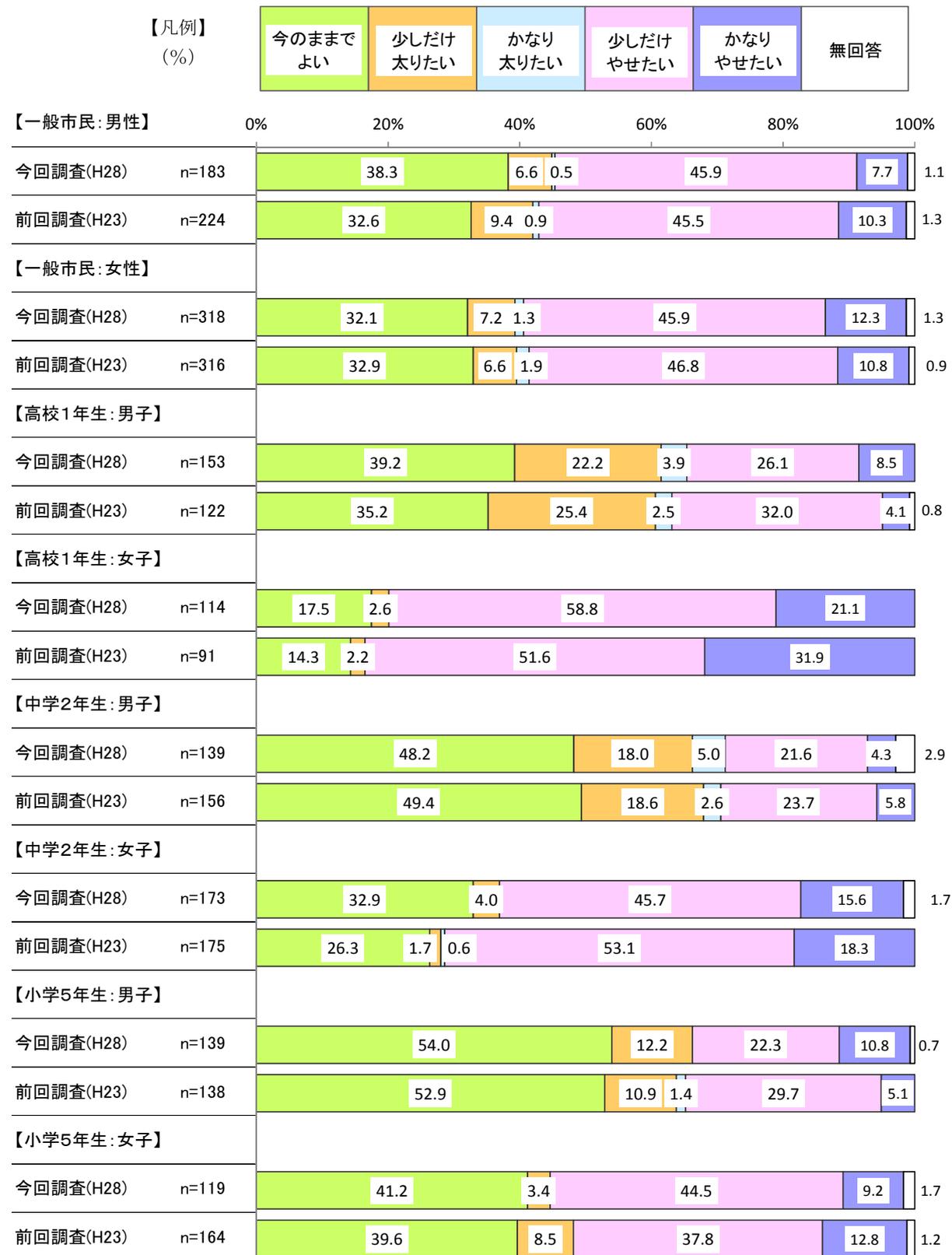
「食事バランスガイド」を知っている人のうち『参考にしている※3』割合は一般市民では2.8ポイント増加し、園児の保護者では7.6ポイント減少。



※3 「いつも参考にしている」「ときどき参考にしている」の計

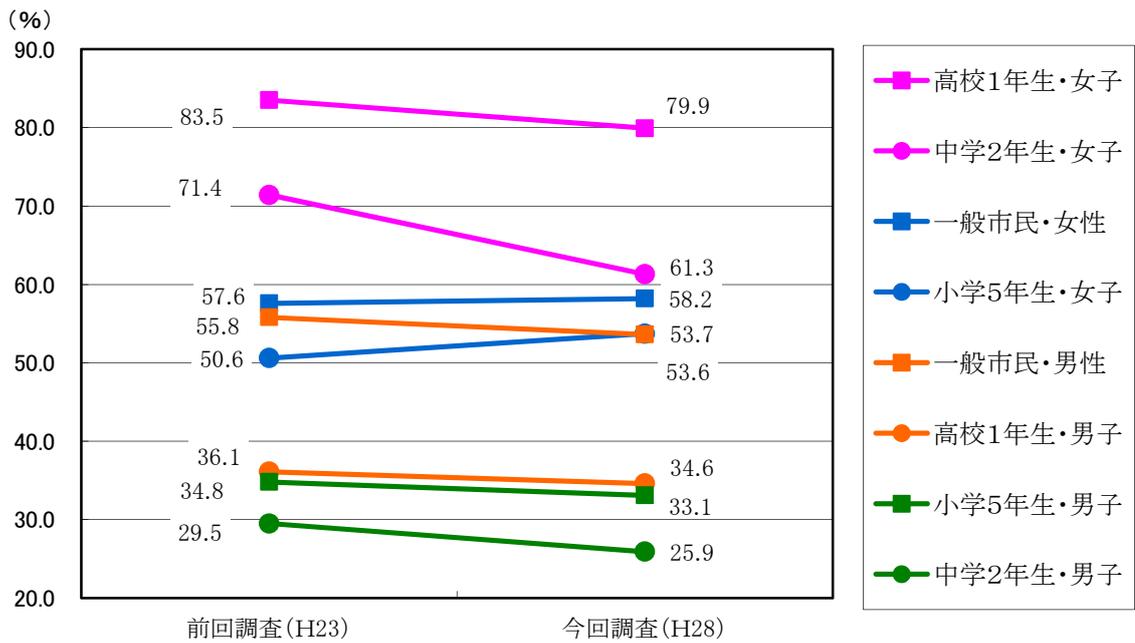
⑥自身の体型評価

小中高校生では、自分の体型について、『やせたい※』は、高校1年生女子で約8割、中学2年生女子で約6割、小学5年生女子で約8割。どの年代も女性の瘦身希望が高い。瘦身希望は前回調査と比較すると一般女性と小学5年生女子が増加。



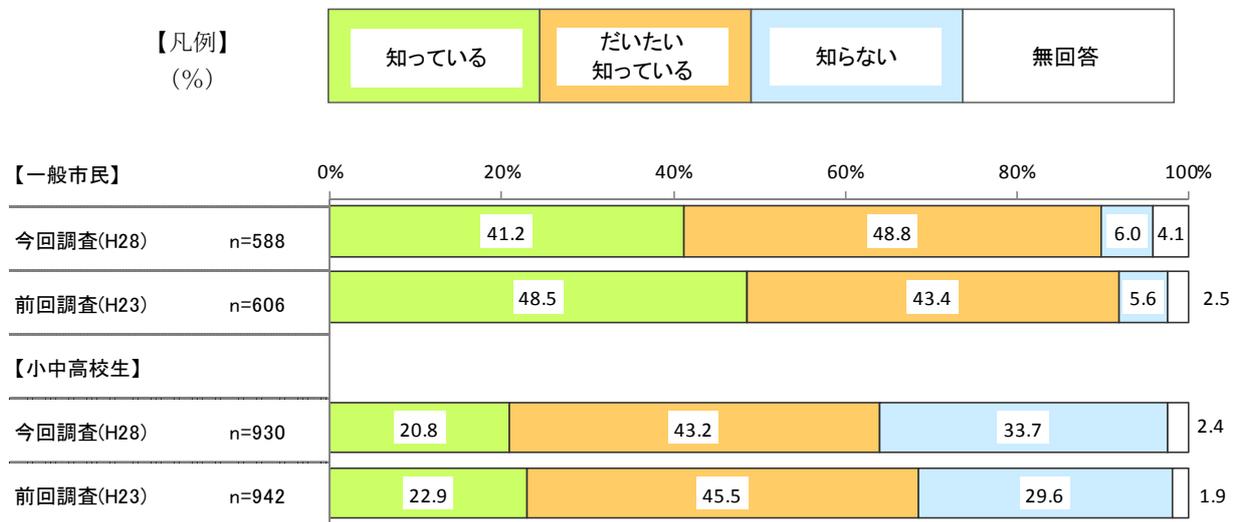
※「少しだけやせたい」「かなりやせたい」の計

「やせたい」の割合の推移



⑦自身の適正体重の認知

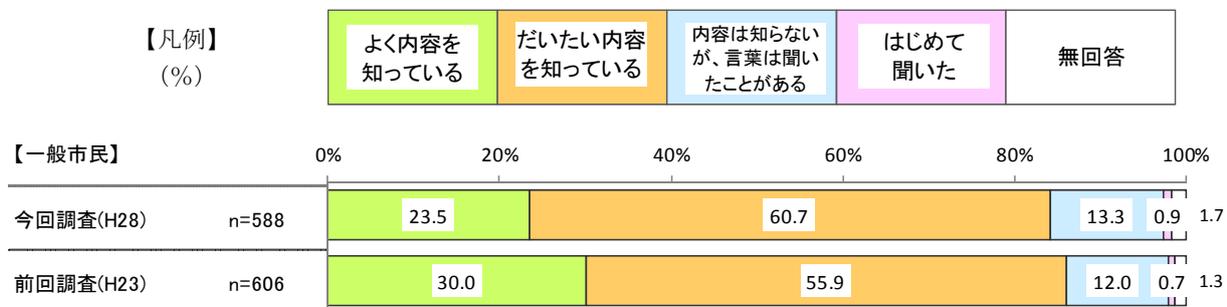
適正体重を『知っている※』人は一般市民で約9割。小中高校生では約6割。



※「知っている」「だいたい知っている」の計

⑧メタボリックシンドロームの認知度

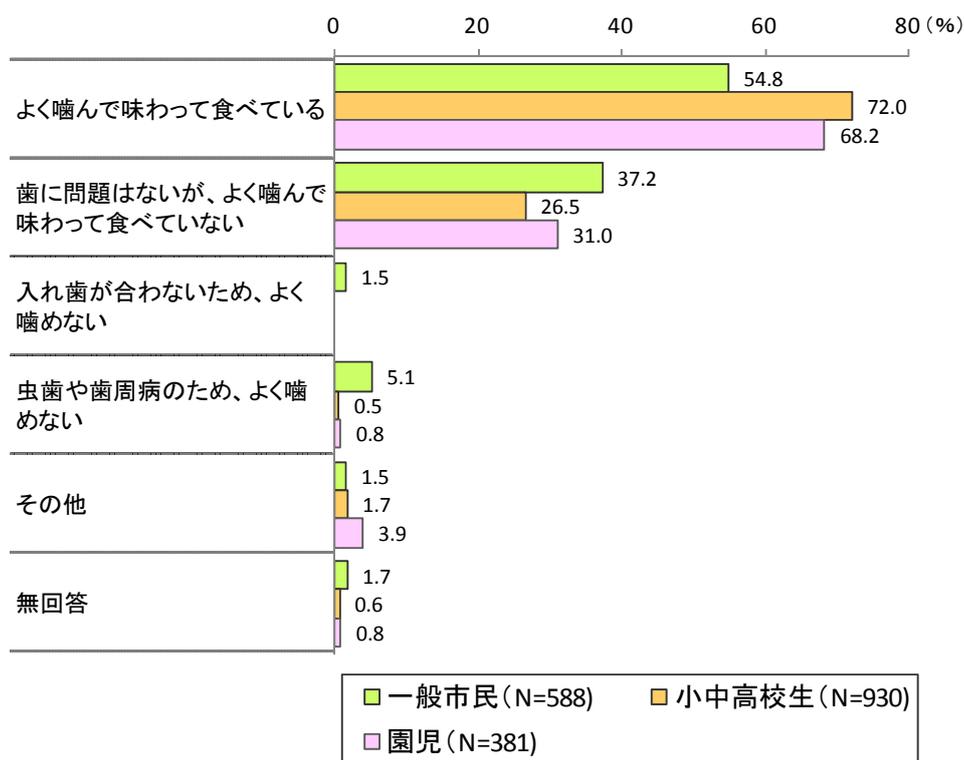
メタボリックシンドロームを『知っている※』人は84.2%。前回調査と比較すると減少。



※「よく内容を知っている」「だいたい内容を知っている」の計

⑨よく噛んで味わって食べている人

「よく噛んで味わって食べている」人は、一般市民で54.8%、小中高校生で72.0%、園児で68.2%と若い世代に多い。

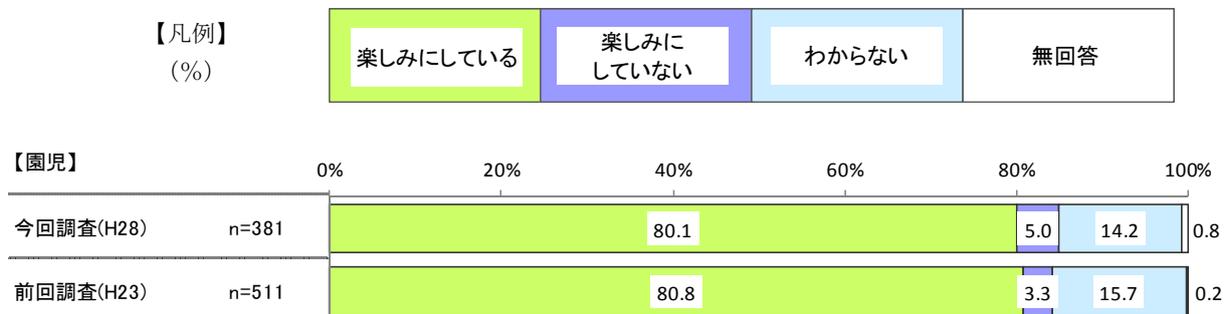
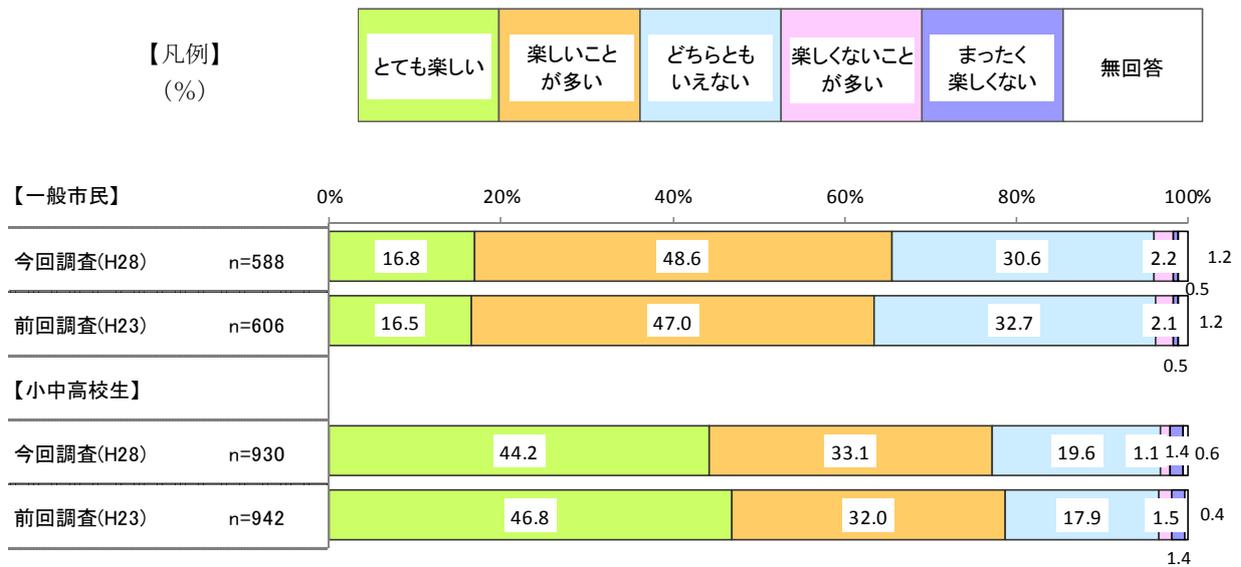


※「入れ歯が合わないため、よく噛めない」は、一般市民だけの選択肢のため、小中高校生と園児の回答はない

基本目標2 食を通じて豊かな心を育てよう の現状

① 食事の楽しさ

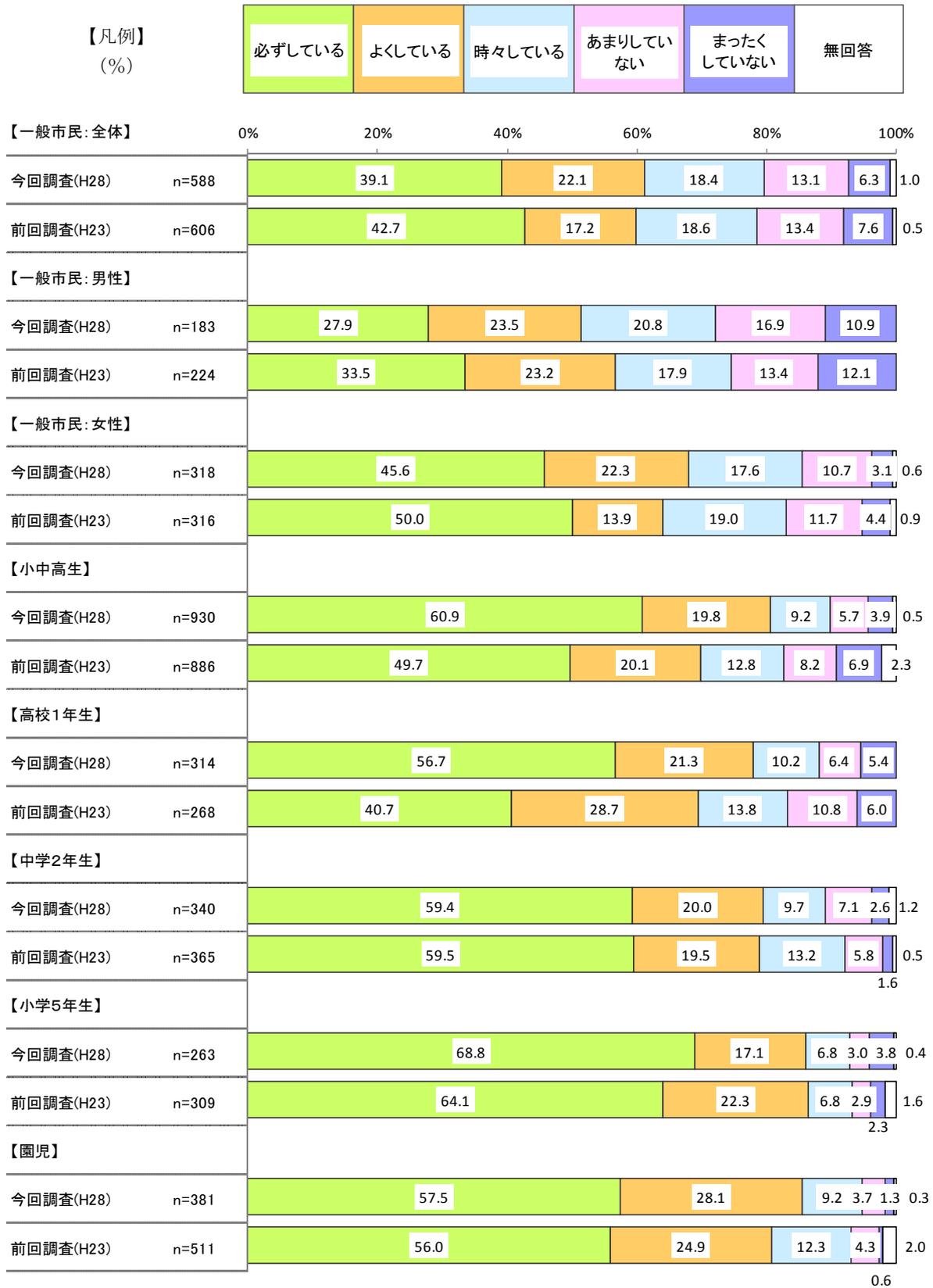
毎日の食事が『楽しい※』と答えた人は、一般市民で65.4%、小中高校生で77.3%、園児で80.1%となっており、前回調査と比較して一般市民で増加、小中高校生で減少。



※ 「とても楽しい」「楽しいことが多い」の計

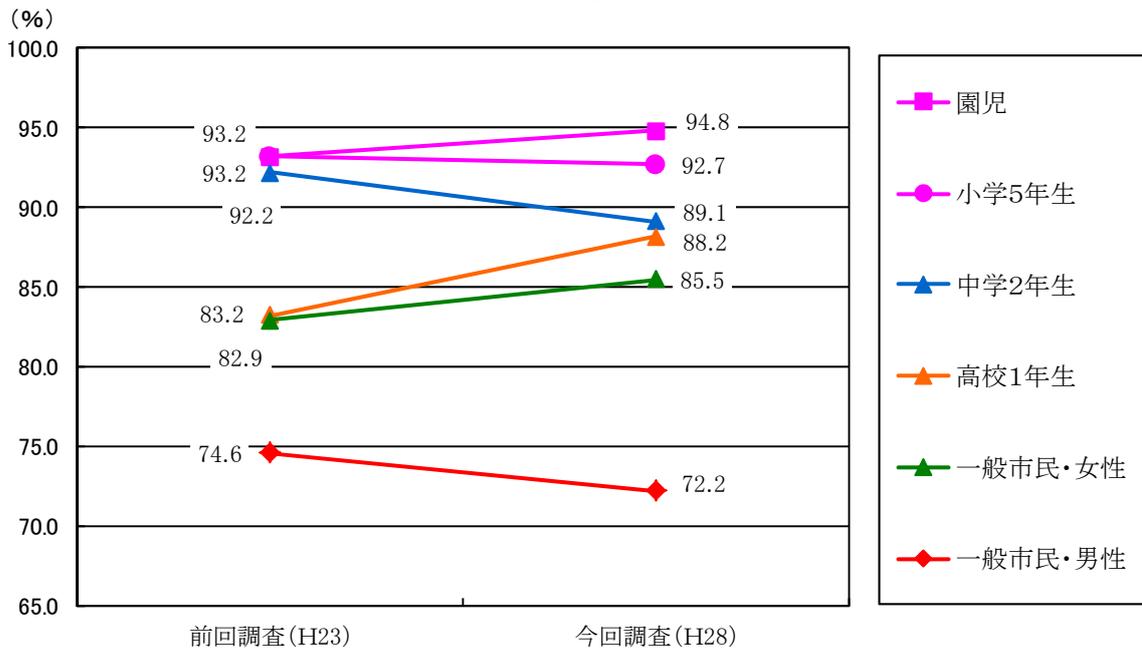
②食事の際のあいさつ

食事の際に『あいさつしている※』人は、一般市民男性で72.2%、女性で85.5%、小中高
校生、園児では、8割以上。前回調査と比較すると、高校生と園児は増加、小中学生は減少。



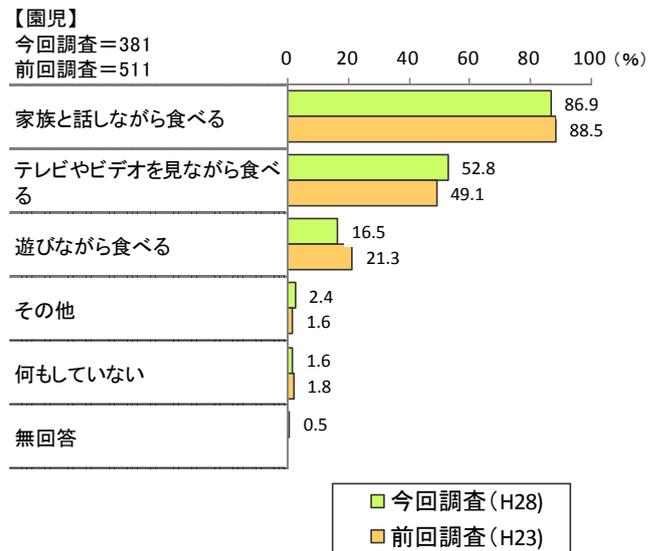
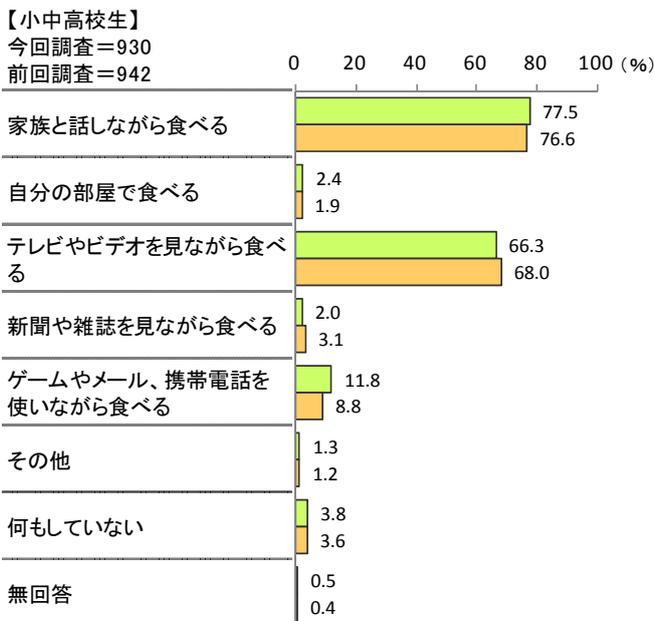
※「必ずしている」「よくしている」「時々している」の計

「あいさつしている」の割合の推移



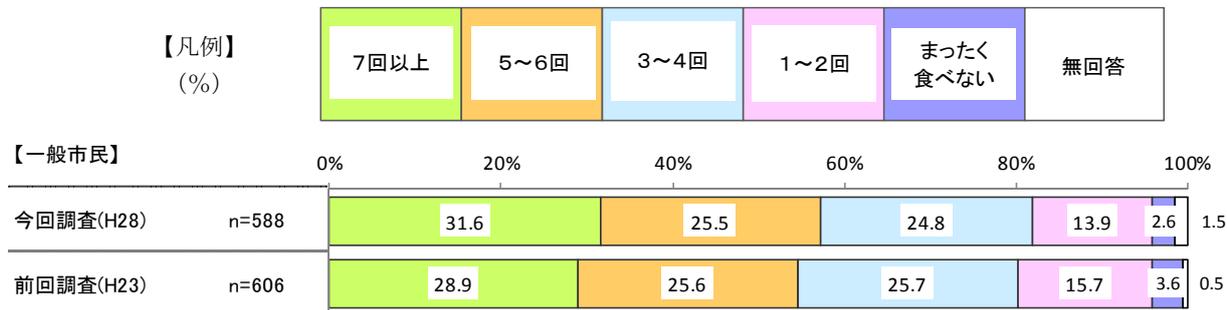
③食事中にすること

小中高校生、園児とも「家族と話しながら食べる」が最も多い。ついで「テレビやビデオを見ながら食べる」が続いている。前回調査と比較すると、「家族と話しながら食べる」は小中高校生は増加、園児は減少。「ゲームやメール、携帯電話を使いながら食べる」は小中高校生は増加している。



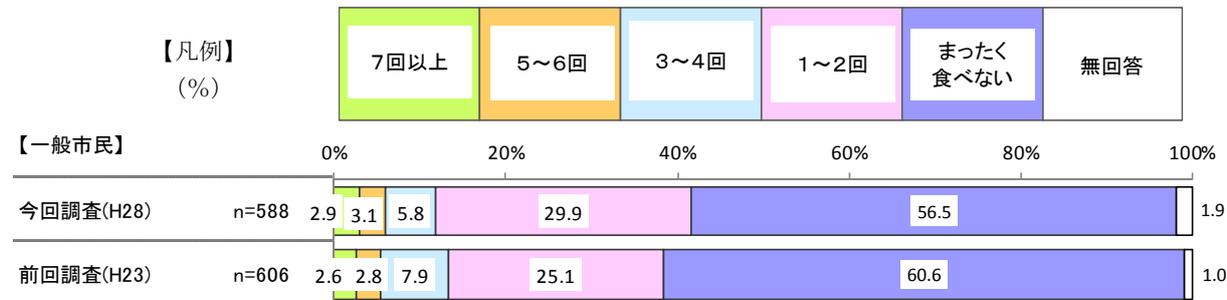
④行事食の実施状況

1年間に家庭で行う行事食の回数は、「5回以上」が半数以上だが、大きな変化はなし。

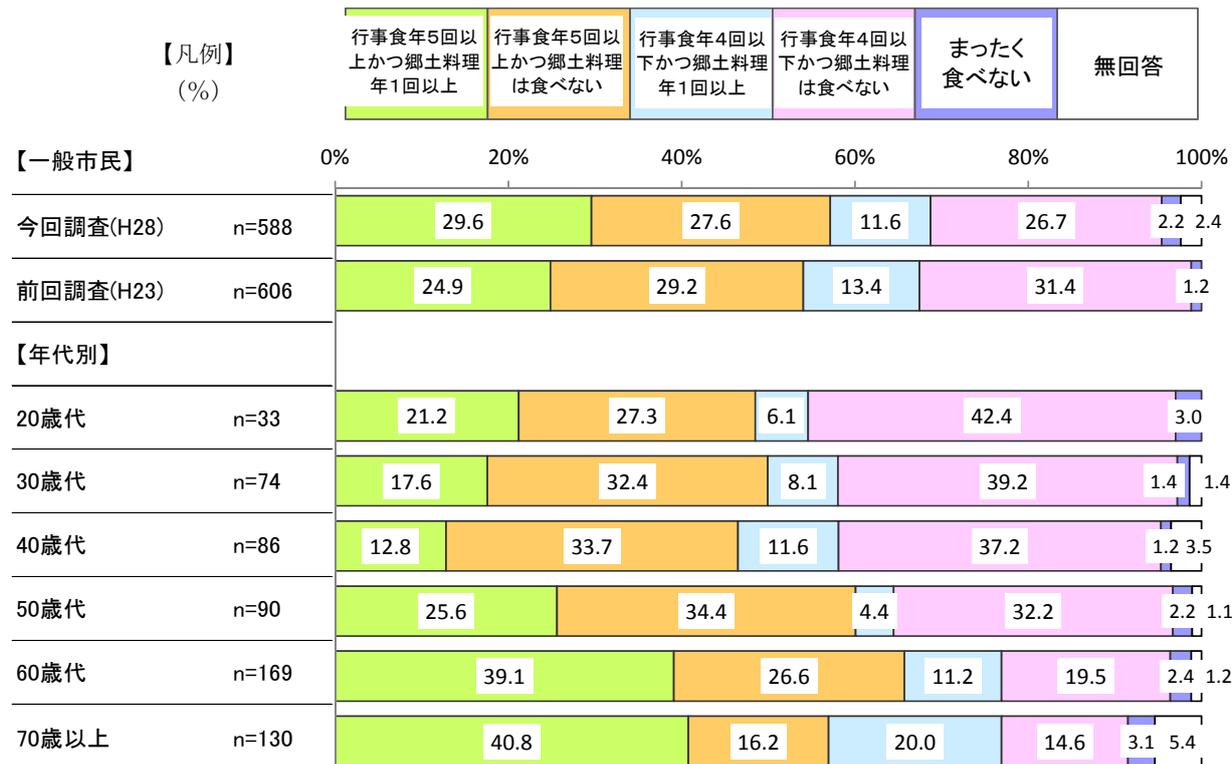


⑤郷土料理の実施状況

1年間に家庭で食べる郷土料理の回数は、「まったく食べない」が56.5%で前回調査と比較して4.1ポイント減少。



◆ 1年間に郷土料理を1回以上実施しているかつ行事食を5回以上実施している人*の割合

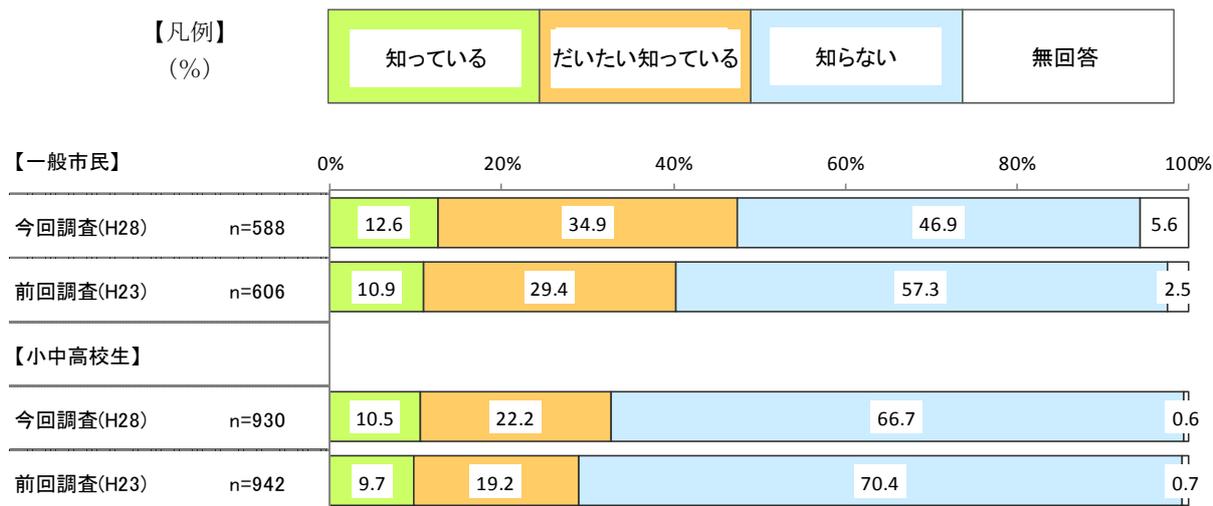


*「行事食年5回以上かつ郷土料理年1回以上」「行事食年5回以上かつ郷土料理は食べない」「行事食年4回以下かつ郷土料理年1回以上」の計

基本目標3 食を通じて環境にやさしい生活をしよう の現状

①地元食材の認知

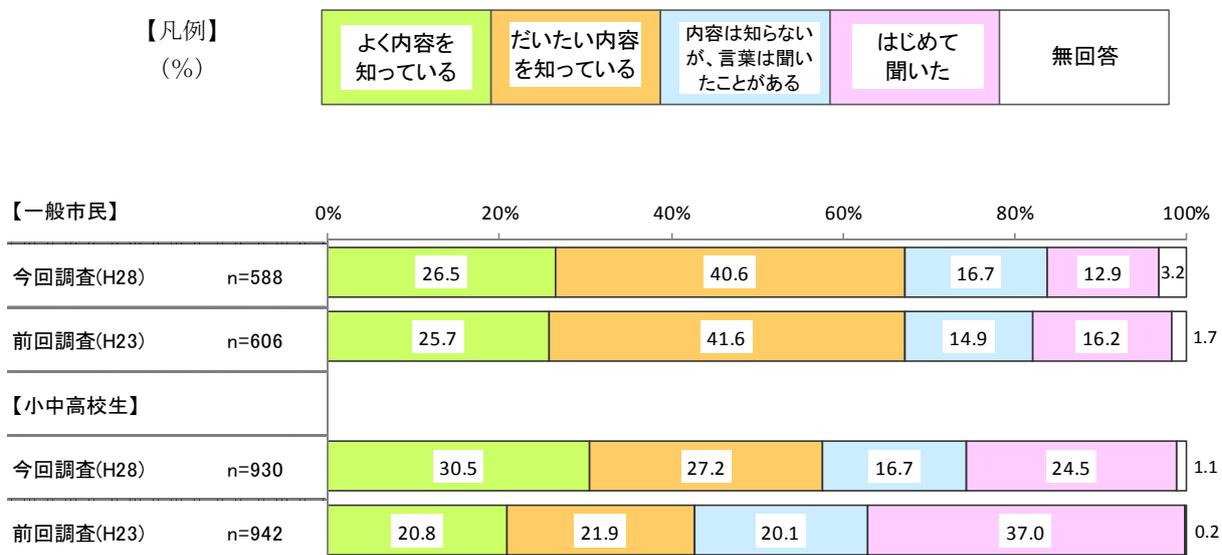
小牧市の地元産の食材について『知っている※1』と回答した人は、一般市民で47.5%、小中高校生で32.7%となっており、前回調査と比較すると一般市民で7.2ポイント増加、小中高校生で3.8ポイント増加。



※1 「知っている」「だいたい知っている」の計

②地産地消の認知度

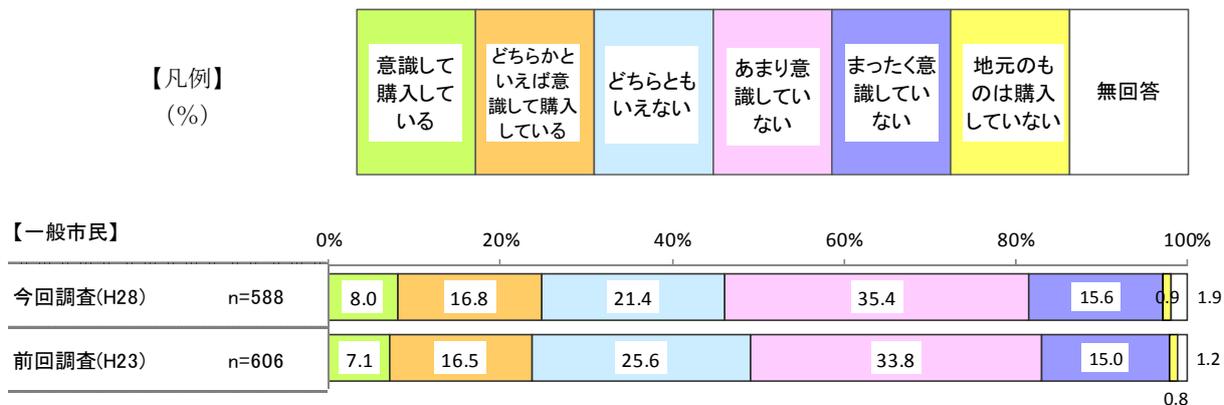
「地産地消」の内容の認知度※2は、一般市民で67.1%、小中高校生で57.7%となっており、前回調査と比較すると小中高校生で15ポイント増加。



※2 「よく内容を知っている」「だいたい内容を知っている」の計

③地元食材の購入状況

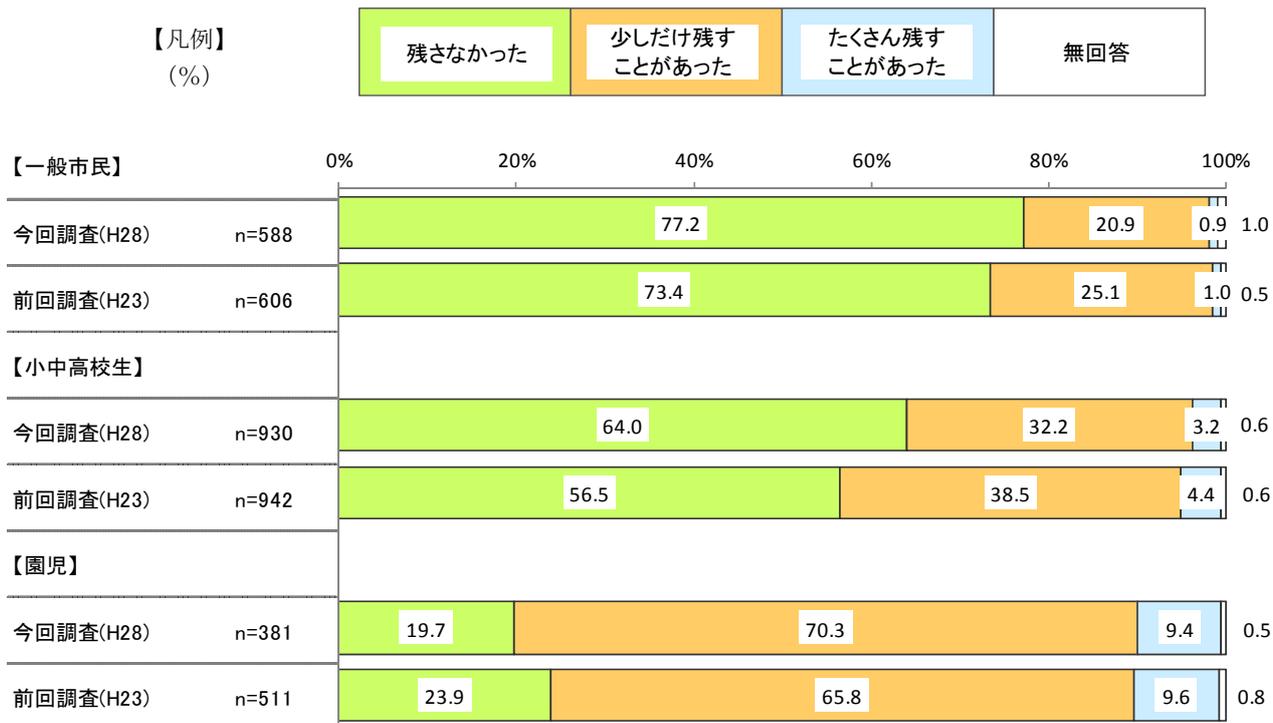
地元産の野菜や果物を『意識して購入している※』は24.8%。前回調査と比較すると微増。



※「意識して購入している」「どちらかといえば意識して購入している」の計

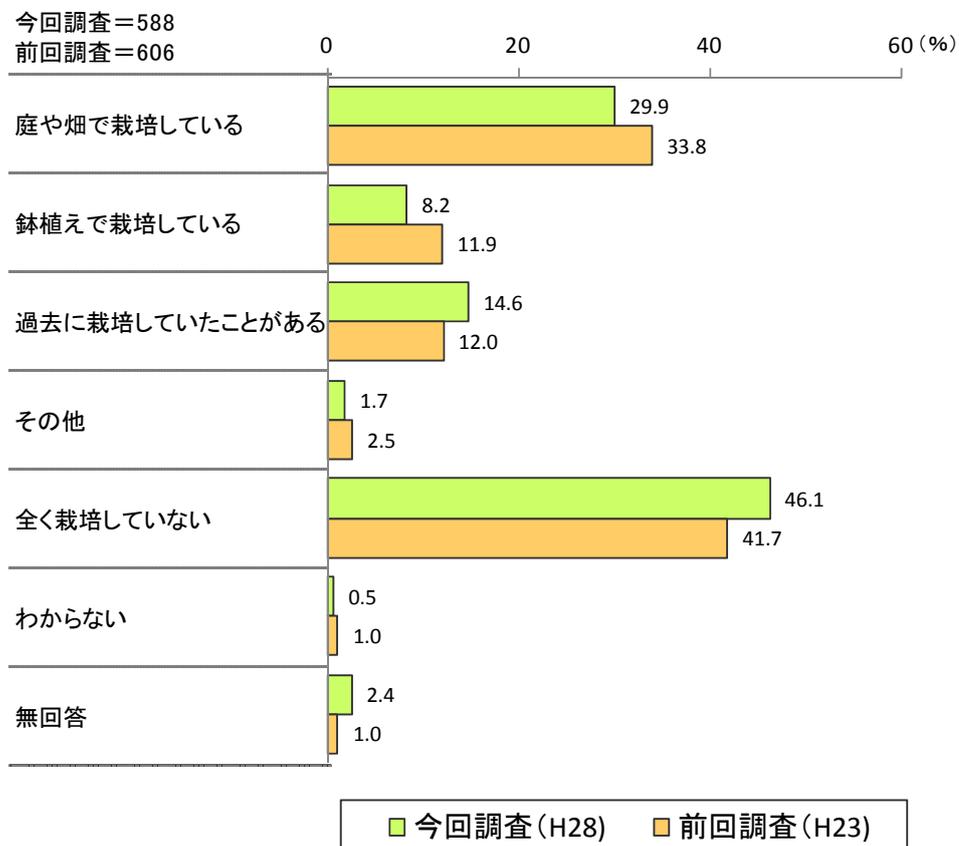
④食べ残しの状況

1週間の食事の食べ残しは、「残さなかった」が一般市民で77.2%、小中高校生64.0%、園児で19.7%となっており、前回調査と比較すると、一般市民で3.8ポイント増加、小中高校生で7.5ポイント増加、園児は4.2ポイント減少。



⑤自宅での栽培

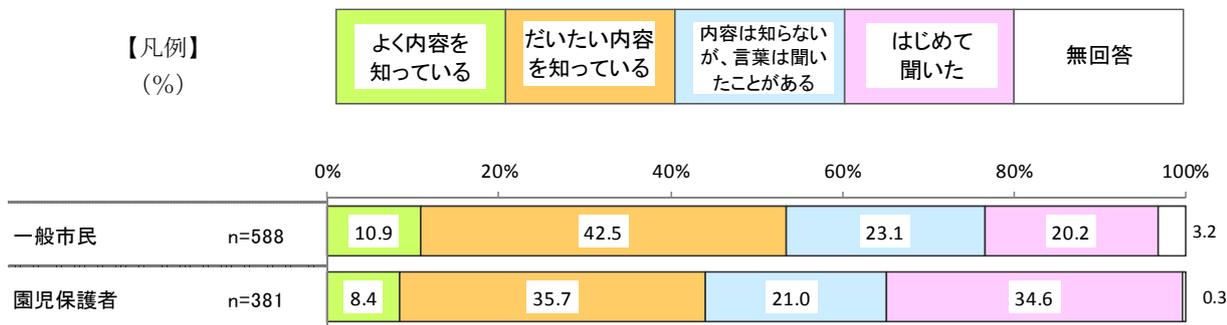
自宅で『食べる野菜を栽培している※』人は全体で38.1%。前回調査と比較すると、栽培している人は減少し、「過去に栽培していたことがある」や「全く栽培していない」が増加。



※「庭や畑で栽培している」「鉢植えで栽培している」の計

⑥食品ロスについて

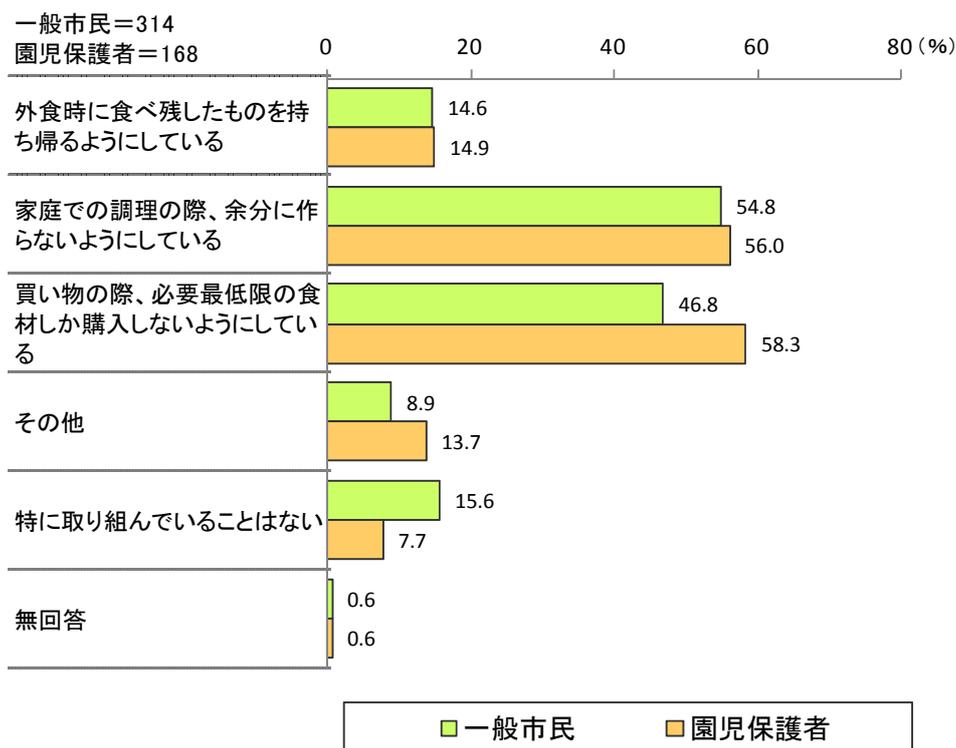
「食品ロス」の内容の認知度※1は、一般市民で53.4%、園児の保護者で44.1%。



※1 「よく内容を知っている」「だいたい内容を知っている」の計

⑦食品ロスに対する取り組み

食品ロスに対する取り組みは、一般市民、園児の保護者のいずれも「家庭での調理の際、余分に作らないようにしている」、「買い物の際、必要最低限の食材しか購入しないようにしている」で高い。



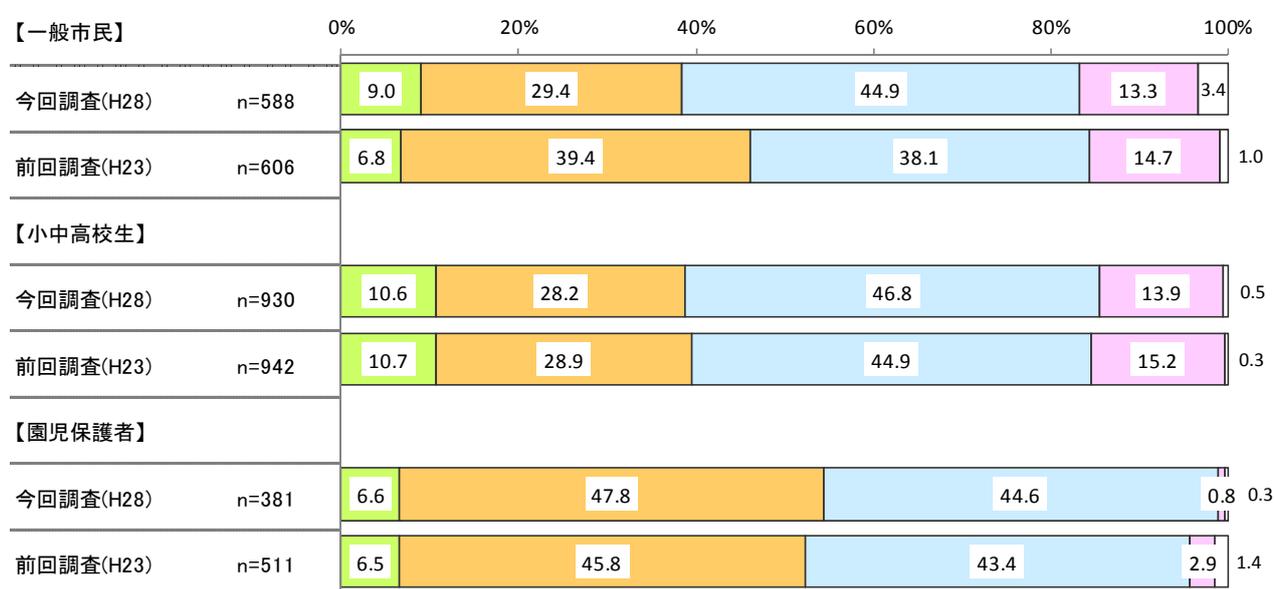
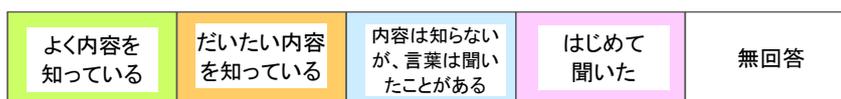
基本目標4 食育を広めよう の現状

① 「食育」の認知

「食育」について、『内容を知っている※1』は一般市民で38.4%、小中高校生で38.8%、園児の保護者で54.4%と園児の保護者が最も高い。前回調査と比較すると、一般市民では7.8ポイント減少、園児の保護者では2.1ポイント増加。

言葉の認知度※2は、一般市民で83.3%となっており、前回調査と比較すると1.0ポイント減少。

【凡例】
(%)

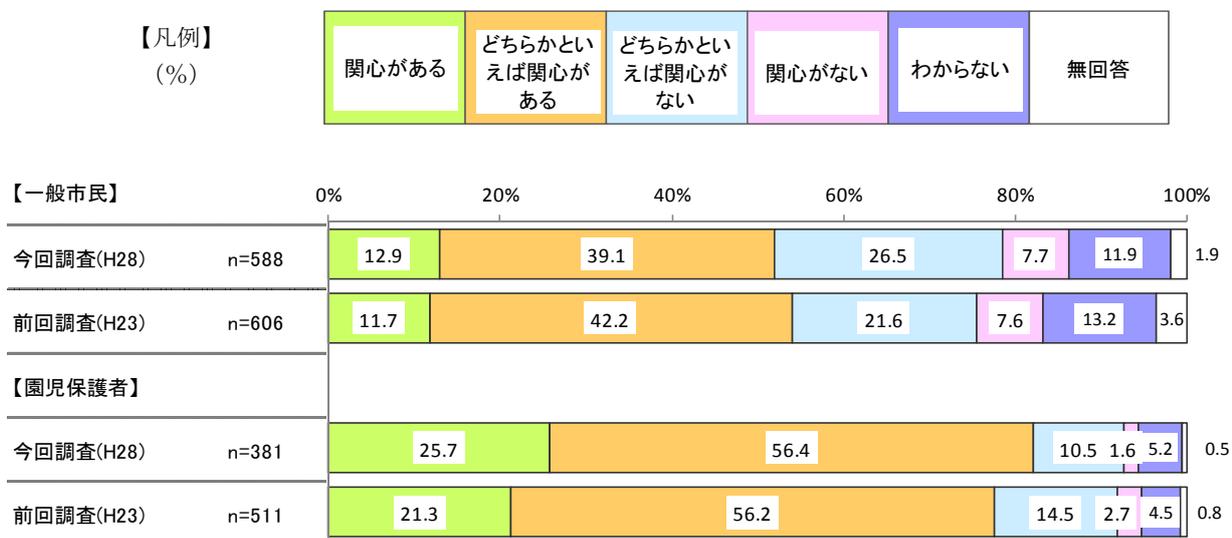


※1 「よく内容を知っている」「だいたい内容を知っている」の計

※2 「よく内容を知っている」「だいたい内容を知っている」「内容は知らないが言葉は聞いたことがある」の計

②食育についての関心

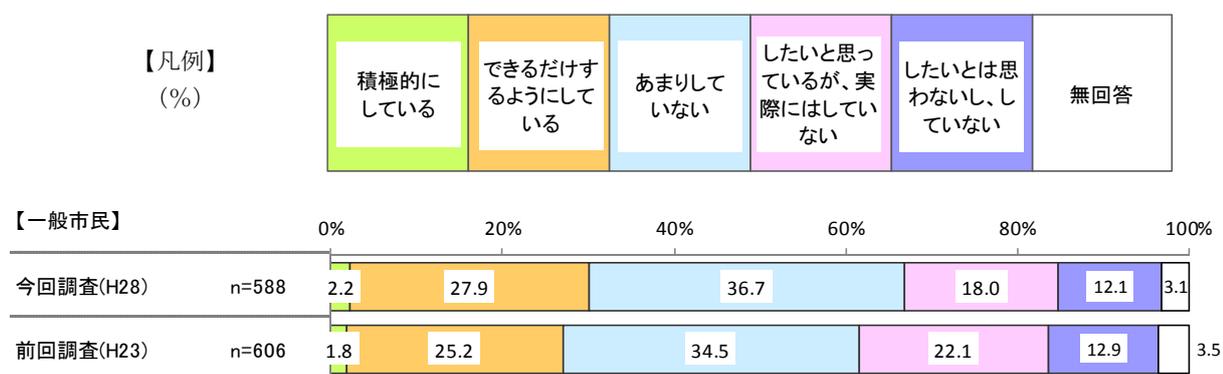
「食育」に『関心がある※1』は一般市民では 52.0%、園児の保護者では 82.1%となり、前回調査と比較すると一般市民では 1.9 ポイント減少、園児の保護者では 4.6 ポイント増加。



※1 「関心がある」「どちらかといえば関心がある」の計

③「食育」に関する活動や行動

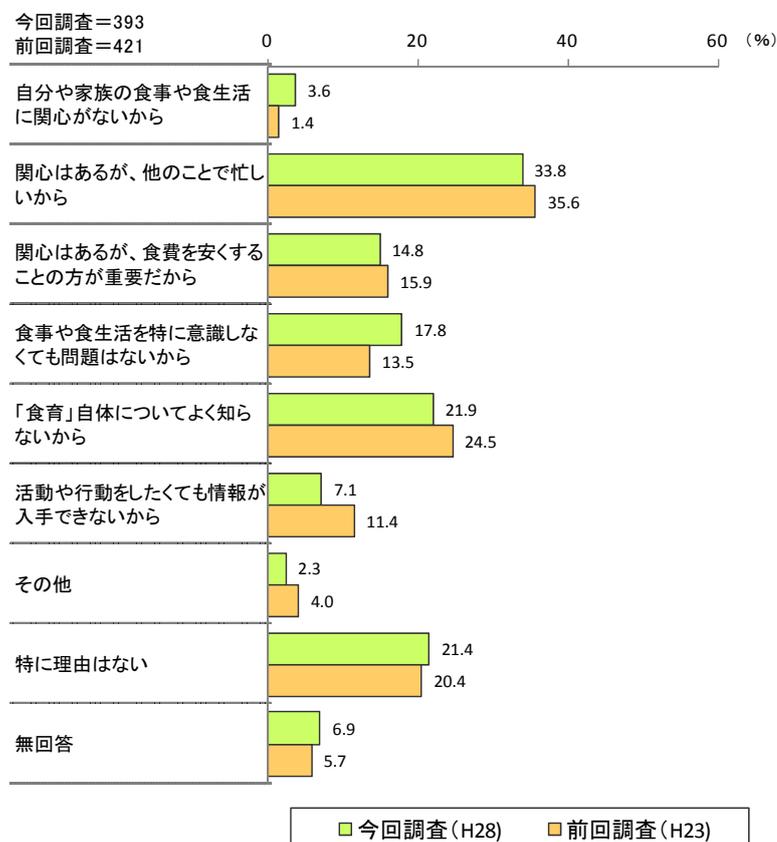
「食育」に関する活動や行動を『している※2』は 30.1%となり、前回調査と比較すると 3.1 ポイント増加。



※2 「積極的にしている」「できるだけするようにしている」の計

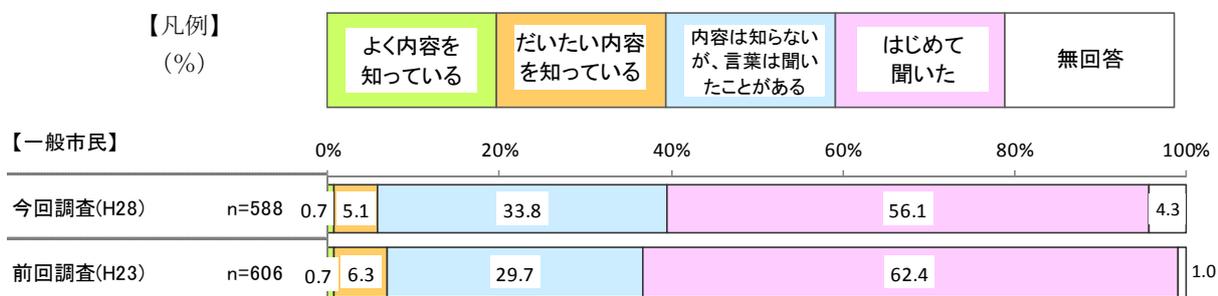
④食育に関する何らかの活動や行動をしていない理由

「食育」に関する活動や行動をしていない人のその理由を聞いたところ、「関心はあるが、他のことで忙しい」が33.8%と最も多く、次いで「食育自体についてよく知らないから」と続いている。



⑤「小牧市食育推進計画」の認知

「小牧市食育推進計画」について、『内容を知っている※2』は5.8%。言葉の認知度※3は39.6%と前回調査よりも増加。



※2 「よく内容を知っている」「だいたい内容を知っている」の計

※3 「よく内容を知っている」「だいたい内容を知っている」「内容は知らないが言葉は聞いたことがある」の計

3 小牧市食育推進計画の評価

第2次計画では、計画の進捗と評価を行うため、12項目、25指標を目標指標として掲げました。25指標のうち目標達成は1指標にとどまっています。目標指標には達しなかったものの第2次計画策定時よりも上昇しているのは14指標、逆に下降しているのは10指標となっています。

基本目標	目標指標	指標数値		H28	評価	
		平成23年度数値	目標数値			
基本目標1 食を通じて 健やかな身体を つくろう	毎日朝食を食べる人の増加	一般市民	86.6%	90%	87.4%	○
		小中高校生	88.7%	95%	88.0%	×
		園児	94.3%	95%以上	93.2%	×
	自分の食生活がよいと思う人の増加	一般市民	79.7%	90%	84.4%	○
		自分の適正体重を知っている人の増加	一般市民	91.9%	95%以上	90.0%
	よく噛んで味わって食べる人の増加	小中高校生	68.4%	80%	64.0%	×
		一般市民	50.7%	60%	54.8%	○
		園児	65.2%	75%	68.2%	○
基本目標2 食を通じて 豊かな心を 育てよう	食事が楽しいと回答する人の増加	一般市民	63.5%	75%	65.4%	○
		小中高校生	78.8%	85%	77.3%	×
		園児	80.8%	90%	80.1%	×
	「いただきます」「ごちそうさま」などのあいさつをする人の増加	一般市民	59.9%	70%	61.2%	○
		小中高校生	78.6%	85%	80.7%	○
		園児	80.9%	90%	85.6%	○
郷土料理を年1回以上実施しているまたは行事食を年5回以上実施している人の増加	一般市民	67.5%	75%	68.8%	○	
基本目標3 食を通じて 環境にやさしい 生活をしよう	地元産食材を購入している人の増加	一般市民	23.6%	40%	24.8%	○
	食事の食べ残しをしなかった人の増加	一般市民	73.4%	85%	77.2%	○
		小中高校生	56.5%	65%	64.0%	○
		園児	23.9%	50%	19.7%	×
自宅で食べる野菜を栽培している人の増加	一般市民	45.7%	55%	38.1%	×	
基本目標4 食育を 広めよう	「食育」を知っている人の増加	一般市民	46.2%	60%	38.4%	×
		小中高校生	39.6%	55%	38.8%	×
		園児保護者	52.3%	65%	54.4%	○
	「食育」に関する活動や行動をしている人の増加	一般市民	27.0%	40%	30.1%	○

※ 「◎」は目標達成、「○」は目標未達成だが前回よりも上昇、「×」は前回よりも下降していることを表している。

4 小牧市の食に関する現状と課題

小牧市食生活等に関するアンケート調査から小牧市の食に関する現状と課題を整理します。

基本目標1 食を通じて健やかな身体をつくろう

【 現 状 】

- 朝食は9割弱が「ほとんど毎日」食べている状況にあります。一方で「ほとんど食べない」は4.3%です。
- 朝食を食べない理由は「時間がない」、「食欲がわからない」、「食べる習慣がない」が多くなっています。小中高生は「時間がない」、「食欲がわからない」園児は「食欲がわからない」が高い状況にあります。
- 朝食を食べている人でも、野菜やおかず、果物はそれぞれ2～3割となっています。園児はパン、ごはん、牛乳、ヨーグルト、チーズ、くだものが多く、野菜は低く1割程度となっています。
- 食生活に何らかの「問題がある」と思っている人は14.5%で、その問題は「栄養のバランス」が1位となっています。
- 食事バランスガイドの言葉の認知度は約7割ですが、内容の認知度は約3割にとどまっています。また、内容を知っている人でも参考にしているのは半数程度にとどまっています。
- 体型については一般市民の約半数の46.1%が「やせたい」と考えています。そして、適正体重を「知っている」は9割となっています。また、小中高生では約半数が「やせたい」と考えており、適正体重を「知っている」のは約6割です。
- 小中高生のダイエット経験は約2割となっています。
- 「内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）」の認知度は9割以上と高く前回調査とほぼ同じ認知状況です。

【 課 題 】

- ▷食習慣、生活習慣については、子どもは親の影響を受けるため、親への働きかけが重要です。
- ▷特に朝食の欠食率は低く定着してきているものの、朝食の質に着目して、何を食べるのかなど、具体的に啓発していく必要があります。
- ▷啓発はポスターや資料配布にとどまっており、実践に向けた働きかけ、動機づけが必要です。
- ▷食事バランスガイドの理解を深めるとともに、実際に活用するための働きかけが必要です。
- ▷自分の体型を正しく認知できていない子どもが多い現状のため、子ども自身へ正しい健康観を持たせる働きかけが重要です。
- ▷園・学校・職場などとの連携を図るための関係づくりが重要です。
- ▷関係機関や関係者が横の連携を図る必要があります。

基本目標2 食を通じて豊かな心を育てよう

【 現 状 】

- 食事を「楽しみにしている」人は、園児で8割、小中高校生では約7割を占めますが、一般市民では約6割となっています。
- 食事のときのあいさつをしている人が一般市民では約8割、小中高校生、園児では約9割となっています。
- 一般市民では朝食は約4割、夕食は約2割が孤食。小中高校生では朝食で約4割、夕食で約1割です。園児でも朝食の7%は孤食となっています。
- 小中高校生のうち約1割は食事中にゲームや携帯電話をしています。園児では、遊びながら食事をする人が約1割となっています。
- 郷土料理は、「まったく食べない」が約5割を占めています。行事食は「まったく食べない」が1割未満となっています。

【 課 題 】

- ▷食習慣、生活習慣については、子どもは親の影響を受けるため、親への働きかけが重要です。
- ▷郷土料理は認知度の低さなど様々な理由から敬遠されがちになっていることが考えられ、小牧市の郷土料理の周知啓発、講習会・料理教室の開催等の学習・認知の機会提供が必要です。
- ▷園・学校・職場などとの連携を図り、市民への周知啓発が重要です。

基本目標3 食を通じて環境にやさしい生活をしよう

【 現 状 】

- 地元食材の認知度は37.5%と前回調査と比較して増加しています。また、地元食材の購入率も増加の傾向にあります。
- 「地産地消」の内容の認知度は前回調査とほぼ同じ程度になっています。
- 「地産地消」の大切さは一般市民で約7割、小中高校生で約8割を占めており、地産地消の必要性は、用語の認知とともに深まっています。
- 「食品ロス」の認知度は約7割を占めており、内容を知っている人の中で、「家庭での調理の際、余分に作らないようにしている」、「買い物の際、必要最低限の食材しか購入しない」といった具体的な取り組みをしている人が多くなっています。
- 食べ残しについては、一般市民で約7割、小中高校生で約6割、園児で約2割が残さなかったと答えています。

【 課 題 】

- ▷「地産地消」が浸透してきており、今後も理解を深めるための取り組みとともに、市民が実践できる取り組みが必要です。
- ▷食品ロスへの理解促進のため、市民への周知啓発とともに、園・学校・職場などと連携を図り周知啓発する取り組みが必要です。
- ▷生産者への感謝の気持ち、調理者への感謝の気持ちなど、園・学校などを通じて子どもたちの理解を深める取り組みが必要です。

基本目標4 食育を広めよう

【 現 状 】

- 食育について、認知度は高くなっていますが、計画の認知度は1割未満です。
- 食育への関心は一般市民で約5割ですが、前回調査よりもわずかに減少しています。園児の保護者では8割以上と高い関心度です。
- 食育のための行動を「している人」は約3割、前回調査と比較して増加しています。

【 課 題 】

- ▷実践する市民の計画に対する理解を深め、活動への協力・参加を促すことが重要です。
- ▷食育への関心は、対象年齢によって異なることから、年代に合わせた取り組みが必要です。
- ▷食育に関する理解を深め、参加者を増加させるため、園・学校などを通じて子どもたちの理解を深める取り組みが必要です。
- ▷園児の保護者に関心を持っている人が多いことから、子どもから、親からなどの多様な視点での訴求が必要です。